

第6回県立あすなろの郷検討委員会の議事概要

- 日 時 平成29年8月7日（月）10：30～11：45
- 会 場 あすなろの郷管理棟研修室
- 出席者 委員8名（欠席2名），事務局，社会福祉事業団
- 結 果

第5回までの検討内容を整理した報告書（案）につき議論を行った結果，報告書（案）については概ね了解され，今回の意見等を反映した報告書については委員長に一任された。

○ 報 告

（1）民間連携体制検討会及び地域移行促進学習会について

民間連携体制検討会と地域移行促進学習会の開催結果について報告された。今後の開催状況等については，適宜，HP等により公表していくこととなった。

○ 議 事

（1）県立あすなろの郷検討委員会報告書（案）について

第5回までの検討内容を整理した報告書（案）につき議論を行った。報告書（案）については概ね了解され，今回の委員会意見等の盛り込み方など報告書の詳細については委員長に一任された。

（主な意見等）

- ・事業団のモチベーション向上を図るため，指定管理者制度は現在の「精算性」ではなく，利用に係る料金を当該指定管理者の収入とする「利用料金制」の方が望ましい。将来的には，指定管理者制度の見直しも行うべき。
- ・事業団が運営主体であることで安心感を打ち出すことができる。ただし，将来においては，全国展開している法人があすなろの郷の運営に手を上げることも懸念されるため，事業団の更なる経営努力が期待される。
- ・あすなろの郷を運営してきた事業団の専門性の高さは評価できる。「6建て替えと運営主体」については，一般論や県の公的役割を示すなど表現を改めるべき。
- ・医療サービスの提供については，あすなろの郷病院単体では対応が困難なケースも想定されるので，地域の医療機関との連携を進めるべき。「地域を育てる」視点を持って，地域の協力病院とともに今後のあすなろの郷の事業展開を進めてほしい。
- ・地域での相談支援については，「基幹相談支援センター」の取組が重要である。自治体と連携して取り組みを進めてほしい。
- ・あすなろの郷では民間では受け入れ困難な方が入所している。民間施設のサービスの質については施設間で差があると思われるため，県は支援面・経営面においても安心できるような地域の受け皿の整備を進めてほしい
- ・委員会報告書は，急激な変化を避けて，時間をかけて地域移行等を進める点が評価できる。その運用においても，丁寧に時間をかけて取り組んでほしい。
- ・地域移行促進センター（仮）の内容と具体的な支援をどのように進めるかが，地域移行等の促進のポイントとなる。
- ・地域移行促進センター（仮）の機能は，現時点で模倣できるモデルはない。むしろ全国の先進的なモデルとなるよう県をあげて取り組んでほしい。
- ・人材の確保・育成は大変厳しい状況である。高齢女性の活用や他の地域団体の協力など，「仲間づくり」の裾野を広げて取り組むべき。
- ・在宅障害児者向けの地域療育等支援事業や24時間緊急ステイ，医療面での在宅支援である多機能型児童発達支援事業所は継続すべき。